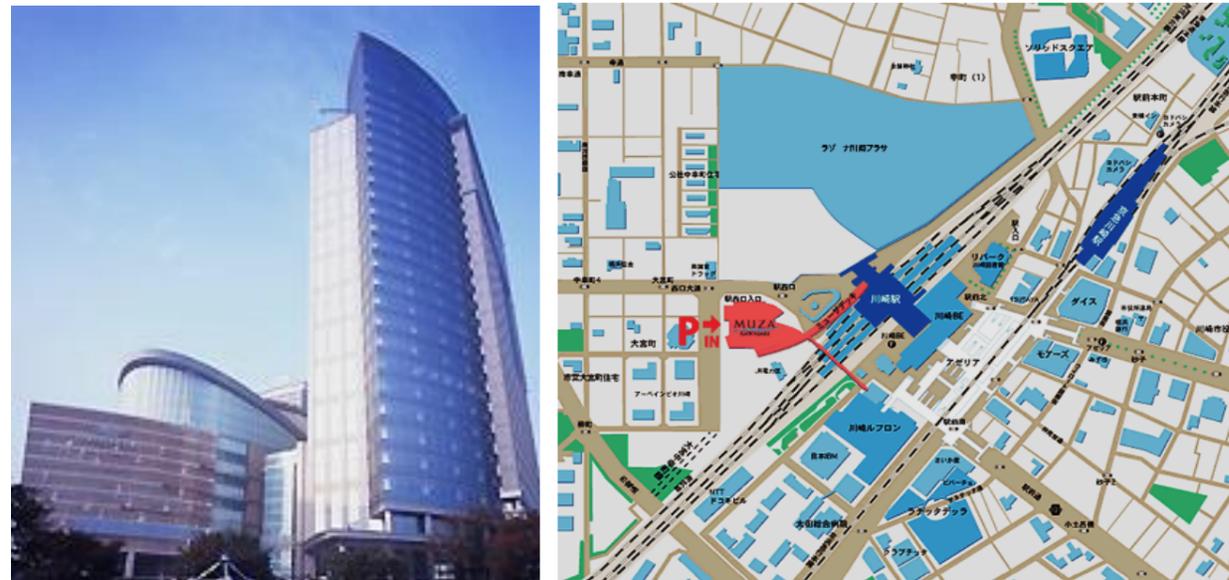


■参考資料5 川崎市・ミュージア川崎シンフォニーホールと音楽のまちづくり

1. 施設概要

(文化芸術、商業、オフィスの複合したランドマーク施設としてのミュージア川崎)

- ミュージア川崎は、先端技術と情報、そして文化に出会える街・川崎の玄関、JR川崎駅西口のランドマークとして整備された。地上27階の超高層オフィス棟と2,000席を有するコンサートホールを主軸に、広域的な都市拠点機能を持ち、利便性の高い生活空間を提供している。
- 工場のまち、公害のまちといったまちイメージを払しょくし、「音楽のまち」として市民が愛着を持ってもらう核として、ミュージア川崎シンフォニーホールが整備された。
- ミュージア全体は、建築面積10,669㎡、延床面積114,322㎡。第一種市街地再開発事業、施行者都市基盤整備公団(現、独立行政法人都市再生機構)。



(ワインヤード形式が特徴的な、優れた音響と定評あるコンサートホール)

- 2004年開館、座席数1997席、中央のステージを360度取り囲む螺旋構造をしたワインヤード形式
- 東京交響楽団をフランチャイズ楽団とする
- ホール運営にはチーフアドバイザーとして秋山和慶(東京交響楽団桂冠指揮者)、アドバイザーとして小川典子(ピアニスト)、佐山雅弘(ジャズピアニスト)、松居直美(オルガニスト)を置いている。



(自由な発想で活用できる音楽工房の併設)

- 音楽工房：市民交流室(座席数：150席可動席)、音楽文化・企画展示室(面積213.4㎡)、研修室(4室)、練習室(3室)、会議室(3室)。
- 音楽工房も含め、ミュージア川崎シンフォニーホールが占める延床面積17,243.96㎡



(運営方針)

<頂点>

- クラシック音楽に最適な音響特性を活かし、最高峰の音楽芸術を創造・発信して、聴衆と演奏家にとって魅力のあるホールを目指します。

<広がり>

- 市民の音楽鑑賞や音楽活動の場を提供・支援し、音楽に触れる楽しさや演奏する喜びを味わっていただけるホールを目指します。

<多様性>

- オリンピック・パラリンピック東京2020大会やその後の地域社会づくりに向けて川崎市が進める「かわさきパラムーブメント」と連携し、バリアフリーの環境づくりを推進して、誰もが文化芸術に親しむことができるホールを目指します。

<未来>

- 子どもたちが楽しみながら音楽に触れる機会を提供し、地域のホールとして親しみがもてるコミュニティプログラムを展開するなど、子どもたちの感性豊かな心の成長と豊かな人生の形成に資するホールを目指します。

<まちのシンボル>

- 「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして国内外に川崎を発信するとともに、心豊かで活力ある地域社会の形成に貢献することで、市民が愛着と誇りを感じられるホールを目指します。



ホールに入場する前に待機するスペース 歓喜の広場。

2. 音楽のまちづくりの取組み

（「音楽のまち・かわさき」の推進 音楽による新たな価値の創造）

- 川崎市には、2つの音楽大学をはじめ、4つの市民オーケストラや100を超える市民合唱団など多彩な市民の音楽活動、さらには、豊富な人材の在住など、多彩な地域資源があり、様々な活動が行われている。それら地域資源とミュージア川崎シンフォニーホール、フランチャイズオーケストラである東京交響楽団との関わりを創ることで、都市イメージの向上や地域の活性化といった、音楽活動によって新たな価値を創造してきた。
- さらに、首都圏の立地の優位性が、知名度のあるイベントの開催や新たな企業・商業施設の進出につながり、川崎のブランドカが高まるなど、相乗的な効果が次々と波及していく好循環を創り出している。

（行政が担う基幹的な音楽のまちづくり推進事業）

- 現在、以下のような事業が行われている。
 - ①かわさきジャズ
 - ②アジア交流音楽祭：多文化共生の川崎の特徴を生かした音楽祭
 - ③東京交響楽団市内巡回公演：市内各施設などに出向くコンサート
 - ④プラチナ音楽祭：シニア世代の音楽活動の発表の場の確保
 - ⑤交流の響き：全国の地方新聞社が開催するコンクールの優秀者を招請し、全国発信を支援
 - ⑥国際音楽文化交流事業：姉妹都市、友好都市との音楽交流事業
 - ⑦坂本九の魅力発信事業：坂本九の功績をたたえ、出身地川崎から広く、継続的に紹介していく
 - ⑧かわさき市民第九コンサート：公募による市民合唱団と市民オーケストラの超大編成公演
 - ⑨川崎シンフォニーホールの運営・東京交響楽団のフランチャイズ

（民の力を結集した『「音楽のまち・かわさき」推進協議会』による活動）

- 市民団体「音楽のまち・かわさき」推進協議会は2004年に発足した。音楽を中心とした多様な市民の多彩な文化、芸術活動の創造を通じて、活力とうるおいのある地域社会づくりをめざしている。
- 会長は味の素株式会社代表取締役会長、副会長（4名）は洗足学園音楽大学学長、昭和音楽大学理事長、合唱団「アニモ KAWASAKI」代表、株式会社チッタ エンタテインメント取締役が就いている。
- 基本方針として4つを挙げている。

（1）基盤づくり

市内に点在する、独自の活動を展開している、質の高い音楽人材・団体・施設の連携を進めることで「音楽のまちづくり」の基盤を形成、整備する。

（2）産業振興

音楽活動を行いやすい環境を整備し、各種の音楽関連産業の振興を進め、市内経済の活性化に貢献する。

（3）裾野拡大

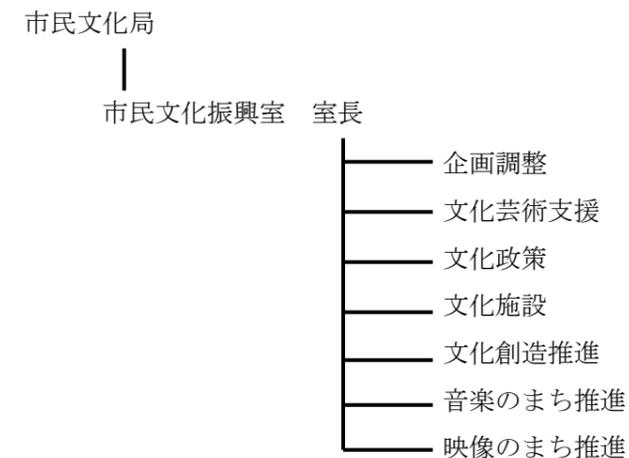
基盤づくり、産業振興を通じて音楽に関わる人の裾野拡大を進める。

（4）戦略的情報発信

市内を中心に身近な音楽関連情報を発信するとともに、首都圏に向けて「音楽のまち・かわさき」を幅広くアピールする。

（参考）

■川崎市文化政策所管組織



■現在策定中の「川崎市総合計画 第2期実施計画（2018～2021）」においても、

「本政策4 活力と魅力あふれる力強い都市づくり」のなかで、

- 誰でもが身近に音楽を楽しめる環境づくりと音楽を通じた活力と潤いのある地域社会づくりの推進
- ミューザ川崎シンフォニーホールなどの音楽資源を活かした「音楽のまち・かわさき」の魅力の発信

が施策の方向性として示されている。

注）川崎市の「音楽のまちづくり・かわさき」は、地域再生法に基づく地域再生計画の第1回認定（内閣総理大臣認定）を受けている（2005年）。